

かわら版

「戦争法」No! アベ政治を許さない

東京大学教職員組合発行
TEL/ Fax: 03-5841-7971(ext.27971)
<http://tousyoku.org/>

何かおかしいと感じたら syokikyoku@tousyoku.org まで

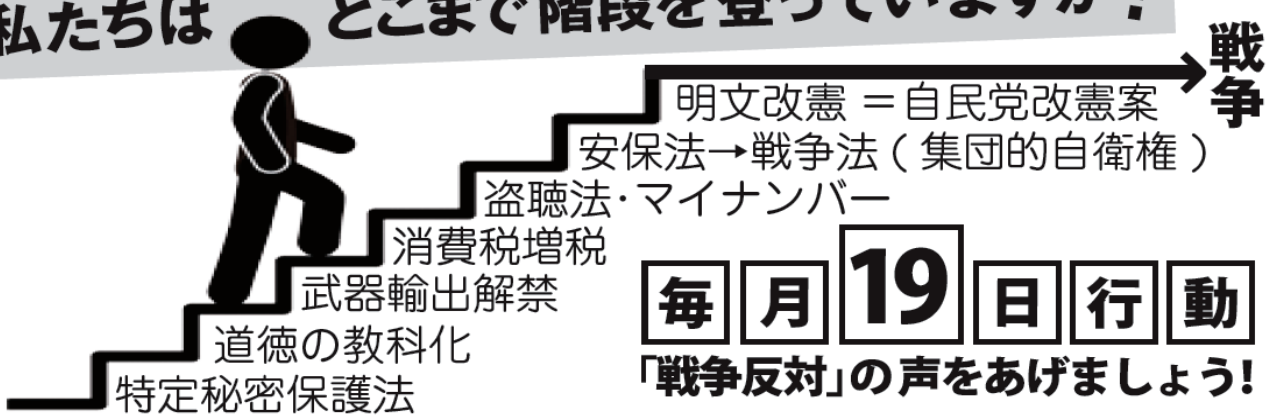
9.19 違憲の戦争法「成立」から3カ月 私たちは「戦争できる国づくり」を許さない!

2015年9月19日未明、「9条守れ!日本を壊すな!」国会前を埋め尽くした大群衆のコールの中、安倍政権は国の「背骨」である憲法を踏みにじり、6割が反対、8割が説明不足という国民の声を無視して、安全保障関連法(戦争法)を強行「採決」、「成立」させました。

あれから3ヶ月、安倍政権は、内閣改造後も臨時国会を開催しないという憲法違反を重ね、辺野古基地建設工事を強行し、「戦争できる国づくり」への歩みを着々と進めています。

以下は「戦争させない・9条壊すな!総がかり行動実行委員会」作成のチラシですが、この図でいえば、今、私たちの国は戦争へと向かう7段の階段の6段目まで登って来てしまったこととなります。

私たちは **どこまで階段を登っていますか?**



毎月19日行動
「戦争反対」の声をあげましょう!



戦争させない・9条壊すな!

総がかり行動

国会正門前他
場所は ↓ →
sogakari.com

実行委員会



安倍政権が準備する危険な道筋

安倍政権は、9条のほかにも、「緊急」時には首相に権限を集中し個人の権利を制限可能な「緊急事態条項」の追加などの明文改憲や市民運動の不当な弾圧につながる「共謀罪」の新設をもくろんでいます。また戦争法の「成立」により「駆けつけ警護」が可能になったことで、自衛隊が実際の戦闘行為に踏み出す道も開かれてしまいました。これはまぎれもなく日本が戦争する国へと突き進んで行く道であり、国際情勢をさらに悪化させ、世界平和への道を逆に困難にするものです。

安倍首相は、南シナ海での米軍の軍事行動を自衛隊が支援する可能性を認めています。もし米国と中国による全面的な軍事衝突が発生すれば、沖縄をはじめ、日本国中の米軍基地が攻撃対象になります。戦場は米国ではありません。日本が主たる戦場になるのです。(「秘密保護法を考える市民の会」リーフレット「安保法制を考える」差込み通信 11 より)

東職のこれまでと今後の取り組み

東職は、6月に東職OB・OGが中心となって立ちあげた「戦争法案に反対する東大有志の会」(現在は「戦争法廃止をめざす東大有志の会」、以下「東大有志の会」と)の連帯を表明、学生・教員有志による「安保法案東京大学人緊急抗議集会・アピール実行委員会」とも連携しながら、戦争法に反対し、民主主義と立憲主義を踏みにじる安倍政治の暴走を止めるために、この間、集会への参加、本郷、駒場でのチラシ配布などの活動を行ってきました。そして当面は、以下の2つに重点的に取り組みます。

1. 2000万人「戦争法の廃止を求める統一署名」(戦争させない・9条壊すな!総がかり行動実行委員会)

昼休み構内署名行動: 12月21日(月)本郷キャンパス 生協前 第1次集約(終了)
(東大有志の会と連携) 1月28日(木)駒場キャンパス 駒場生協食堂前 第2次集約
2月29日(月)本郷キャンパス 未定 第3次集約
3月31日(木)本郷キャンパス 未定 第4次集約

署名用紙は東職書記局または東職HPから。あるいは「総がかり」で検索

2. 来年参院選における戦争法反対議員過半数当選を目指す運動への連帯

SEALDsなどが「市民連合」、野党統一候補支援へ

安全保障関連法に反対して国会前で抗議してきた学生団体「SEALDs(シールズ)」などの5団体が20日、来年の参院選に向けて野党統一候補を支援する「市民連合」を設立し、東京都内で記者会見した。来年4月の衆院北海道5区補選でも野党候補を応援するという。

設立されたのは、「安保法制の廃止と立憲主義の回復を求める市民連合」。「SEALDs」「学者の会」「ママの会」など5団体の有志が中心。ほかの団体にも参加を呼びかける。

全国32の1人区で候補者を絞り込むよう野党に働きかける。安保法の廃止や集団的自衛権行使容認の閣議決定の撤回といった基本方針に賛同する候補者を推薦し、選挙応援などをする。独自候補は擁立しない。

朝日新聞デジタル 12月20日(日)20時16分配信

今月9日、85歳で亡くなった作家の野坂昭如さんは、生前「戦争をしてはならない。戦争は何も残さず、悲しみだけが残るんだ」と語っていたそうです。悲しみしか生まない戦争を武力ではなく交渉で未然に防ぐのが政治の力です。9条を持つ日本が進むべき方向に逆行する、危険な安倍政治を何としても阻止しましょう。

最大の敵は無関心 今、一人一人ができることを